

令和元年8月29日
独立行政法人日本スポーツ振興センター
広報室

次世代を見据えた競技別の地域タレント育成システム構築

スキー・トライアスロン・クライミング・ライフル射撃の4競技団体で実施へ

日本スポーツ振興センター（JSC：JAPAN SPORT COUNCIL）は、アスリートパスウェイの戦略的支援事業の一環として、競技別コンソーシアムによる地域パスウェイの整備を行っています。

本事業はタレント発掘事業を実施する地域において、中央競技団体の育成プログラムと連動したコーチングおよびトレーニング環境、競技大会などを整備することにより地域で発掘されたタレントを年代別の日本代表アスリートへ効果的に引き上げるシステムの構築を目指すものです。

この度は二か年度の事業として公募を行い、スキー・トライアスロン・クライミング・ライフル射撃の4競技団体への委託が決定しました。今後はJSCが設置するワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク（WPN）^{※1}会員とのマッチングを行い、実際に地域パスウェイを整備する自治体が決定されます。

日本が国際大会等において将来にわたって好成績を収めていくためには、次世代を担うアスリートの育成の道筋＝アスリートパスウェイの整備が不可欠です。現在多くの地域でタレント発掘事業が行われ、また、競技団体においても育成プログラムが実施されていますが、これらを結び付け、一つのパスウェイとすることで、より強固で持続可能なアスリート育成システムの構築が可能となります。

単年度事業として実施した昨年度の事例では、受託した日本フェンシング協会と愛媛県のWPN会員であるえひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業が連携し大きな成果を上げています。

日本フェンシング協会よりナショナルレベルの指導方法を愛媛県内の有望コーチへ伝達し、地域で発掘されたタレントが日頃から質の高い指導を受けられるようにするとともに、ナショナルコーチが同県内の拠点に定期的に来訪し指導を行い、サーブル種目に特化したコーチングおよびトレーニング環境の整備が行われました。また、県フェンシング協会が主催するサーブル種目に特化した新たな大会も創設され、実践を積むための競技大会の整備も行われました。

今回委託が決定した4競技団体においても、それぞれの地域の特性を活かした形での育成システム構築が進められます。

※1 地域タレントの発掘・育成事業や競技団体等との連携・協働のプラットフォーム（平成27年4月設置）。現在34地域が加盟。